

Victory

NO.2

令和2年6月

宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校図書館

水無月。

降る雨に打たれ、草木の緑がますます鮮やかになっていきます。自然に生きる動植物にとっては恵みの雨なのでしょうね。今年は例年より一日早い梅雨入りでしたが既に一週間が経ちました。雨二モ負ケズ過ごしましょう。

そんな梅雨の時期に満月を楽しみたいと思う記事を読みました。5日の天声人語（朝日新聞）に『米国の先住民は全ての満月に愉快的な名を付けた。』とあり、6月の満月は狩猟や農耕の暦を反映し「ストロベリームーン」と呼ぶそうです（詳細は図書館で読んでください）。

このコラムから様々に興味関心の蔓がのびていきます。「ストロベリームーン」から本来のイチゴの旬について

現状とそのことに対する「幸せ度」を哲学的な問いとして考えたり、「月」について天文学的な視点から詳しく調べたり、また文化人類学的な視点から風習や習俗を、「神話」（日本書紀、古事記）の視点から月にまつわる神を調べるなどいくらでも「知りたい」思いが連想ゲームのように広がります。マッピングしながら書架から見つけたこれら関連図書は後ほど紹介します。

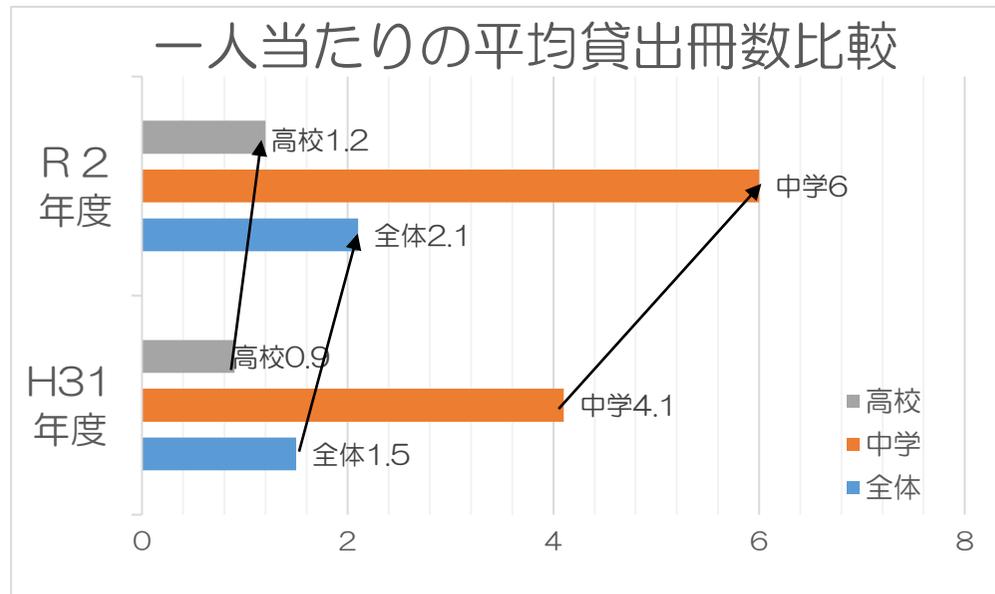
「なぜ？」や「どうなっているの？」、「それは真実？」など小さなことにも好奇心を持つこと、おもしろがることを大切に。あなたの未来につながるのです。

さて、6日の満月は微妙に霞ながらも輝いていましたね。



図書館貸出状況、昨年度との比較

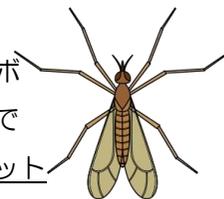
4月開館から6月5日までの図書貸出状況です。棒グラフ上が高校、真ん中が中学、下が全体平均です。これからも、使える図書館を目指します！



扉を開こう。新たな世界が君を待っている。

（ある日のレファレンス）

放課後の図書館にやってきた高校男子。教室でガガンボ（左図：大蚊。ハエ目ガガンボ科の昆虫）を見つけたので学名を調べたいとのこと。あいにく昆虫図鑑がなく、ネット検索で無事解決。「図書館＝本」と思われがちですが、情報媒体は多岐に渡ります。大切なことは、「正確な情報を検索する能力を身につける」です。図書館は、そのスキルを身につけるサポートもします。



*現在、図書館にも検索用PCを一台常備しています。使用時は声をかけてね。

棚から一つかみ『キーワードは月』

よくばりな司書は、あれもこれもみなさんにお伝えしたくて悶々とする日々。さて、今回は冒頭でもふられました「月」でピックアップしました。自然科学と哲学・宗教、文学の分野の「月」をめぐる4冊です。

★ まずは、美しい写真を眺めながら一つ一つ「月」を身近に感じる2冊。



『世界でいちばん素敵な月の教室』

446 (三オブックス)

地球のすぐそばにある月のことを私たちは案外知りません。本書は、シンプルな問いからやさしく謎を解いてくれます。

★ 藤井旭さんは、「チロの天文台」など子どもたちが宇宙に興味を持ちたくなる科学の本をたくさん出されています。

『月と暮らす。月を知り、月のリズムで』

446 P 藤井旭著 (誠文堂新光社)

月の百科事典と言えるすぐれものの一冊。満ち欠け、ことば、宇宙、風景、文学と各分野から月を知ることができます。



★ といえば、以前読んだ小説にも月の神が出てくるシリーズが…。こちらは軽く読めるエンタメ系ですが、毎回心をつかまれるんです。

『神様の御用人7』 浅葉なつ著

(メディアワークス) 9136 P

八百万の神々の願い事をかなえる御用人・フリーターの良彦の今回の依頼者は、月読命。そう天照と須佐之男命に挟まれた兄弟として記紀の中では影の薄い神。月読の頼みは実弟・須佐之男への贈り物を探すこと。今回も行動を起こす良彦だが、やがて予期せぬ方向へ進み始める。「月」だけが知る神々の悲劇。同時に月をきっかけにもう一つの話も展開し…。

神話を改めて読みたいと思うことはもちろん、良彦や神々と一緒に生きることを考える自分の姿に気づきます。狐神の存在がまたいい。モフモフなの。



★ 「御用人シリーズ」は、毎回日本の神様たちが登場します。宮崎にゆかりの神様もちろん。せっくなので、ストーリーと一緒に神様たちについても探ってみましょう。

『神話から読み、知る日本の神様』

加来耕三著 (アスペクト) 164 P

宮崎は神話の地でもあります。この機会に、神様のことを調べてみませんか？神とはいえどこかとても人間臭い神様たちの日常？に目を向け、県内各地にある神々の里に足を運んでみるのも楽しいかもしれません。

